

## 保 健 体 育

### 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

#### (1) 改善の基本方針

ア 保健体育科については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図る。その際、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であることから、引き続き保健と体育を関連させて指導することとする。また、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図る。

イ 体育については、体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。また、武道については、その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善する。

ウ 保健については、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するため、一層の内容の改善を図る。その際、小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、子どもたちの発達の段階を踏まえて保健の内容の体系化を図る。また、生活習慣の乱れやストレスなどが健康に影響することを学ぶことが重要であり、健康の概念や課題などの内容を明確に示すとともに、心身の発育・発達と健康、生活習慣病などの疾病の予防、保健医療制度の活用、健康と環境、傷害の防止としての安全などの内容の改善を図る。

#### 【体育の課題】

- ・運動する子どもとそうでない子どもの二極化
- ・子どもの体力の低下傾向が依然深刻
- ・運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜び、その基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例も見られること
- ・学習体験のないまま領域を選択しているのではないか

#### 【保健の課題】

- ・今後、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択していくことが一層求められることから、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するために、保健の内容の体系化を図ること

#### (2) 改善の具体的事項

##### ア 科目「体育」について

- ・生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、各学校が生徒の実情に応じて、自ら運動に親しむ能力を高め、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにするため、第1学年においては、中学校第3学年との

接続を踏まえ、「体づくり運動」及び知識に関する領域を履修させるとともに、それ以外の領域については「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「ダンス」のまとまりと「球技」、「武道」のまとまりからそれぞれ選択して履修することができるようにする。また、第2学年及び第3学年においては、それぞれの運動が有する特性や魅力に深く触れることができるよう「体づくり運動」及び知識に関する領域を履修させるとともに、それ以外の領域については「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「武道」、「ダンス」から選択して履修することができるようにする。その際、「球技」については、取り扱う運動種目は原則として現行どおりとするが、特性や魅力に応じて、ゴール型、ネット型、ベースボール型に分類し示すこととする。

- ・生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成する観点から、各領域において身に付けさせたい具体的な内容を明確に示すよう改善する。
- ・「体づくり運動」については、生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付けさせ、地域などの実社会で生かせるよう指導の在り方を改善する。また、「体づくり運動」以外の領域においても、学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるよう指導の在り方を改善する。
- ・知識に関する領域については、運動やスポーツについての総合的な理解を深め、実践に生かすことが求められていることから、中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう指導内容を明確に示し、取り扱う時間数の目安を示すこととする。

#### イ 科目「保健」について

- ・個人生活及び社会生活における健康・安全に関する内容を重視する観点から、指導内容を改善する。その際、様々な保健活動や対策などについて内容の配列を再構成し、医薬品に関する内容について改善する。また、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力を育成する観点から、小学校、中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう健康の概念や課題に関する内容を明確にし、指導の在り方を改善する。

## 2 確かな学力を育成する取組の改善・充実

「自ら学び自ら考える力の育成」といった「生きる力」の理念は、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことを目標としている。保健体育科においては、一人一人の生徒に確かな学力を身に付けさせるため、「体育」及び「保健」それぞれの科目について、基礎的・基本的な知識・技能の内容を明確にし、確実な習得を図る指導を一層充実することが大切である。

### (1) 科目「体育」における基礎的・基本的な技能の習得を図る指導の充実について

ここでは、各単元で取り扱う運動種目について、習得させるべき基礎的・基本的な技能の内容を明らかにし、その上で評価規準や学習場面における学習状況の具体例（学びの姿）を設定するとともに、生徒の学習の実現状況を把握し、指導方法や評価の工夫・改善に生かすことをねらいとした「サッカー」（球技）における取組の具体例を示す。

ア 習熟段階における学習内容（技能の内容）の整理

習熟段階		← 初歩の段階		← 進んだ段階		← さらに進んだ段階 →	
様相	イメージ	○密集型 		○縦長型 		○全面型 	
	生徒の動き等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールの周囲だけに人が集まり、ボールにより集団も移動する。</li> <li>個人個人の動きがバラバラで組織的なプレイが少ない。</li> <li>ポジションをとる意識や守備の意識が低い。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>集団は分散しているが、縦への直線的な攻撃が多用される。</li> <li>パスやドリブルをつなげゲームを進めようとしている。</li> <li>ポジションの役割を意識し、個人個人でプレイしようとしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>視野を広げ全体を見渡し、空いた空間を使った攻撃ができる。</li> <li>パスと選手の動きによってゲームを組み立てようとしている。</li> <li>ポジションを意識し、組織的にゲームを行っている。</li> </ul>	
ねらい及び学び方	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>攻撃を重視し、仲間と連携して走り込み、守備をかわしてゴール前での攻撃ができるようになる。</li> <li>基本的なボール操作ができるようになる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>攻撃と守備のバランスを重視し、仲間と連携した動きによって空間を作り出し、攻防を展開できるようになる。</li> <li>ボール操作とボールをもたないときの動きに着目し、空間に走り込んだり、相手をマークして守備ができるようになる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を立て、得失点の攻防を重視した練習やゲームができるようになる。</li> <li>安定したボール操作ができるようになるとともに、空間を作り出し、空いている場所をカバーして守備ができるようになる。</li> </ul>	
	学び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な内容は一斉指導を中心に学習するが、生徒が自ら考え工夫する場面を意図的に設定する。</li> <li>身に付けた技能や作戦でゲームを行うが、点数やコートの広さなどルールを工夫する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と連携した動きに関する課題を与え、チームで取り組む学習活動を重視する。</li> <li>点数やコートの広さなどルールを工夫したゲームから正規のゲームに発展させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手チームの特徴を踏まえた作戦を立て、チームにより練習方法を工夫する学習を重視する。</li> <li>ゲームを中心に学習し、正規のルール、コートでゲームを行う。</li> </ul>	
身に付けさせるべき技能の内容	集団的技術（戦術）	<p>〈攻撃〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロングボールの蹴り出しによる直線的な攻撃ができる。</li> <li>空間を活用した攻撃を理解できるようになる。</li> </ul> <p>〈守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マンツーマンによる守備ができる。</li> <li>ボールを相手コート方向に蹴り返したり、タッチに蹴り出しゲームを止めるなどの守備ができる。</li> </ul>		<p>〈攻撃〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意図的なキック&amp;ラッシュによる攻撃ができる。</li> <li>様々なパスの組み合わせによる空間を活用した攻撃ができる。</li> </ul> <p>〈守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>守備位置を意識したマンツーマンによる守備ができる。</li> <li>ディフェンシブから意図的にロングボールを蹴り、攻撃を防ぐことができる。</li> </ul>		<p>〈攻撃〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意図的な空いた空間をつくり、それを利用した攻撃ができる。</li> <li>相手ボールを奪った後、スピーディーに攻撃へ切り替えができる。</li> </ul> <p>〈守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カバーリングによる組織的な守備ができる。</li> <li>ラインを意識し、オフサイドトラップによる守備ができる。</li> </ul>	
	個人的技術	<p>【ボール操作】</p> <p>〈パス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けたキックにより味方にパスを出すことができる。</li> <li>〈ボールキープ等〉</li> <li>前方への直線的なドリブルができる。</li> <li>守備者がいない位置でボールをキープすることができる。</li> <li>転がるボールを足裏を使って止めることができる。</li> </ul> <p>〈シュート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>守備者がいない位置でゴール方向にシュートすることができる。</li> </ul>		<p>【ボール操作】</p> <p>〈パス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種のキックによりある程度正確に味方にパスを出すことができる。</li> <li>〈ボールキープ等〉</li> <li>相手をかかわしてドリブルができる。</li> <li>相手の動きを確認しボールをキープすることができる。</li> <li>転がるボール、浮いたボールを足の各部を使って自分の足下に止めることができる。</li> </ul> <p>〈シュート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>守備者をかかわして素早くシュートすることができる。</li> </ul>		<p>【ボール操作】</p> <p>〈パス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じたキックで味方が操作しやすいパスを出すことができる。</li> <li>〈ボールキープ等〉</li> <li>視野を確保し、相手をかかわしてドリブルができる。</li> <li>守備者とボールの間に体を入れボールをキープすることができる。</li> <li>強いパスや浮いたロングパスを体の各部を使って処理することができる。</li> </ul> <p>〈シュート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールキーパーの動きや守備位置を確認し、シュートコースをコントロールすることができる。</li> </ul>	
	具体的な学習活動	<p>【ボールをもたない場合の動き】</p> <p>〈攻撃〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</li> <li>パスを受けるために、空いている空間に動くことができる。</li> </ul> <p>〈守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールをもっている相手をマークすることができる。</li> </ul>		<p>【ボールをもたない場合の動き】</p> <p>〈攻撃〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールの進行方向から意図的に離れ、ボール保持者が進行できる空間を作り出すことができる。</li> </ul> <p>〈守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。</li> </ul>		<p>【ボールをもたない場合の動き】</p> <p>〈攻撃〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パスを出した後に次のパスを受ける動きができる。</li> <li>守備者を引きつけ、ゴール前の空間を作り出す動きができる。</li> </ul> <p>〈守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールの空いている場所をカバーすることができる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>キックボーリング</li> <li>ドリブルランニング、リレー</li> <li>パスゲーム（フリータッチ）</li> <li>スローイングゲーム</li> <li>リフティング（足・腿）</li> <li>基本的なキャッチングやキック（GK）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1対1ボールキープ</li> <li>ジグザグドリブル、パスゲーム</li> <li>シュート（ドリブル、ワントラップ）</li> <li>リフティング（両足・腿）</li> <li>動きの中でのキャッチングやキック（GK）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>4対1、4対2ボールキープ</li> <li>ジグザグドリブル、パスゲーム</li> <li>シュート（1対1、センタリングから）</li> <li>リフティング（両足・腿・頭）</li> <li>動きの中での正確なキャッチングやキック（GK）</li> </ul>	

イ 学習場面における学習状況の具体例（初歩の段階における「技能の内容」）

観点	評価項目	評価規準	具体的学習場面における学びの姿				
			A <sup>○</sup>	A	B	C	C <sup>△</sup>
運動の技能	攻撃	・自陣からボールを奪い、ロングボール（パス）の蹴り出しによる直線的な速攻ができる。	各自のポジションを意識し素早い攻守の切り替えによる組織的速攻ができる。	相手ボールを奪った後の意図的なキックや走り出しによる速攻ができる。	偶発的なキック&ラッシュによる速攻ができる。	ロングボールの蹴り出しはあるがうまく速攻につなげることができない。	ロングボールの蹴り出しもなく速攻ができない。
	パス	・インサイドキックやインステップキックにより、味方にパスをすることができる。	状況により2種類のキックを使い分け正確にパスをすることができる。	2種類のキックである程度ねらったところにパスをすることができる。	2種類のキックでパスをすることができる。	パスをすることができないときがある。	パスをすることができない（ねらったところにパスがいかない）。

ウ 単元における生徒の学習の実現状況

単元名：サッカー 対象：1年生男子（初歩的な段階） 生徒数：240人（6クラス）		各観点ごとの考察		改善の視点
関心・意欲・態度	実現の状況	A° 2.2% (53)	・積極的に取り組む生徒が多く、活気の ・単元における学習の実現状況を観点別に把握し、達成状況が不十分な観点について、 指導方法や評価の状況を振り返り、常に改善を図ることが大切です。	・より的確に捉えることができて評価
		A 3.1% (74)		
		B 3.9% (94)		
		C 8% (19)		
		C△ 0% (0人)		
思考・判断		A° 1.5% (36人)	・C、C△が約3割であり、自ら工夫する ことや深く考えることが不足してい いる。 ・相対的に学習ノートの記述が不十分で ある。	・学習ノートの構成や記述方法等の工 夫 ・考査等における「思考・判断」の問 題の工夫
		A 1.6% (38人)		
		B 3.8% (91人)		
		C 2.5% (61人)		
		C△ 6% (14人)		
運動の技能		A° 6% (14人)	・Bが約6割で習得するべき技能を概ね 身に付けている。 ・A°及びAが約2割と低く、もってい る技能を十分に伸ばしきれていない。	・より高度な技能を身に付けさせる指 導方法の検討 ・技能を獲得するために必要な指導時 間数や学習内容など指導計画の検討 ・生徒の実態に即した評価規準の設定
		A 1.5% (36人)		
		B 5.8% (139人)		
		C 1.9% (46人)		
		C△ 2% (5人)		
知識・理解		A° 3.3%	<b>【運動技能が十分に身に付いていない場合における授業改善の視点】</b> ○ 指導方法の工夫の視点 ・それぞれの運動の特性に触れ、技能を高めることができる指導時間数の確保 ・計画的・系統的な指導を行うための単元の配列等、指導計画の工夫 ・生徒の運動量を十分に確保するための授業形態の工夫 ○ 評価の工夫の視点 ・生徒の学びの状況を的確に捉える評価規準や評価方法の工夫 ・適切な評価計画の作成 ・指導した内容を適切に評価し、評価を指導に生かす指導と評価の一体化の工夫	
		A 3.9%		
		B 1.9%		
		C° 7%		
		C 2%		

(2) 科目「保健」における基礎的・基本的な知識の習得を図る指導の充実について

ここでは、教えるべき基礎的・基本的な知識の内容を明確にするため、学習指導要領で示された学習内容やキーワードを整理するとともに、実践的で課題解決に役立つ「知識・理解」を問う評価問題の具体例を示す。

ア 学習内容の整理

領域 教科書	学習指導要領				教科書（A社） 項目
	単元	小単元	学習内容（「知識・理解」の内容）	キーワード	
1 現代社会と健康	ア 健康の考え方	(ア)国民の健康水準と疾病構造の変化	・各種の指標を通して、健康水準の動向を上げ、科学技術の発達や社会経済の発展に伴って健康水準が向上してきたこと ・疾病構造が変化してきたこと	死亡率、平均寿命、受診率、感染症、生活習慣病	1-1 私たちの健康のすがた
		(イ)健康の考え方と成り立ち	・生活の質や生きがいを重視する健康の考え方があること ・健康の成立要因や条件があること	生活の質、生きがいの重視、ヘルスプロモーション	1-2 健康のとらえ方
		(ウ)健康に関わる意志決定と行動選択	・健康を保持増進するためには、適切な意志決定と行動選択が必要であること ・適切な意志決定と行動選択には個人の知識、価値観、心理状態や人間関係、社会環境が関連していること	意志決定、行動選択、社会環境づくり	1-11 健康にかかわる意志決定・行動選択 1-12 意志決定・行動選択に必要なもの
		(エ)様々な保健活動や対策	・国民の健康の保持増進を図るためには、ライフステージやライフスタイルに応じて各種の保健活動が行われていること ・民間の機関の諸活動や国際機関の諸活動について	保健活動、日本赤十字社、WHO、健康日本21	1-3 さまざまな保健活動や対策
2 生涯を通じる健康	ア 生涯の各段階における健康	(ア)思春期と健康	・思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化すること ・異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報への対処など適切な意志決定と行動選択が必要であること	性的成熟	2-1 思春期と健康 2-2 性意識と性行動の選択
		(イ)結婚生活と健康	・保健の立場からの健康な結婚生活について ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について	受精、妊娠、出産、家族計画、人工妊娠中絶、生殖機能	2-3 結婚生活と健康 2-4 妊娠・出産と健康 2-5 家族計画と人工妊娠中絶
		(ウ)加齢と健康	・加齢に伴い、形態面、機能面から見た心身が変化すること ・若い時からの適切な健康習慣を身につけてや定期検診を受けるなど自己管理が重要であること ・中高年の健康は心理的・社会的要因がかかわっていること ・保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること	加齢、老化、リハビリテーション、高齢社会	2-6 加齢と健康 2-7 高齢者のための社会的とりくみ
3 社会生活と健康	イ 環境と食品の保健	(ア)環境保健にかかわる活動	・上下水道の整備、ごみや尿などの環境衛生活動の意義について ・その状況、問題点、対策などを総合的に把握して改善していかなければならないこと	ごみ排出量、上下水道	3-5 環境衛生活動のしくみと働き
		(イ)食品保健にかかわる活動	・食品の安全の確保は、食品衛生法などに基づいて行われていること	病原菌、食品衛生法、HACCP	3-6 食品衛生活動のしくみと働き
		(ウ)健康の保持増進のための環境と食品の保健	・健康と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められていること ・それに係る健康被害の防止と健康増進には、行政・生産者・消費者などそれぞれの役割を果たさなければならないこと	品質表示、リサイクル	3-7 食品と環境の保健と私たち

イ 課題解決に役立つ「知識・理解」を問う評価問題の具体例

●単なる知識の量を問うのみの、陥りやすい評価問題例

問題 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

妊娠中は、胎児への悪影響を避けて、母体の健康を守るため、心身の状態や(①)への配慮が必要です。妊婦は栄養のバランスのとれた食事を心がけ、たばこやアルコールを避け、インフルエンザなどの(②)に注意します。また、(③)の使用や薬の服用が胎児に悪影響を及ぼす恐れがあるので、(④)を受診する場合、妊娠中であることを医師に告げる必要があります。

さらに、妊娠中や出産後の女性は、(⑤)のバランスの変化や、出産や子育ての不安から、思いつめたりふさぎ込んだりすることがあります。このような時には、家族やまわりの人の支援が必要です。

問1 文章の①～⑤に当てはまる語句を語群から選びなさい。

<語群> (a) ウイルス感染 (b) 高血圧 (c) ホルモン (d) 生活行動 (e) エックス線 (f) 医療機関

問2 下線部のような出産後に見られることを何というか。



○課題解決に役立つ「知識・理解」を問う評価問題例

問題 次の表及び文章を読んで、問いに答えなさい。

・Aさんは、結婚して2年が経つ10月生まれの27歳の女性です。

<表1 Aさんの4～5月にかけての主なスケジュール>

4月21日～23日	仕事で出張。忙しくて食事もとれず、睡眠時間もままならない。
4月24日	仕事のストレスがたまっていたので、友だちとゆっくりお酒を飲みに行った。
5月5日	夫婦で買い物に行った。
5月12日	仕事が休みで、歯医者に行った。前から痛みがあった場所のレントゲンを撮り、治療を受けた。
5月18日	友だちの結婚式に出席した。

<表2 Aさんの月経の期間及び月経の予定>

4月							5月					6月								
1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5						1	2	
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

月経期間、 月経予定期間

・Aさんは4月15日からの月経はありましたが、5月15日から始まるはずの月経がなくなりました。もともと月経が不安定で予定より少し遅れることもあったので、あまり気にしないで生活していましたが、次の月経が始まりません。そこで、Aさんは6月14日に産婦人科で検査を受けました。

<病院での診察>  
 医 者：「妊娠していますね。(①)週目に入っています。順調にいけば、出産は(②)月ぐらいになるでしょう」  
 Aさん：「妊娠、ホントですか。ありがとうございます。でも先生、(1)私、心配なことがあります。  
 (Aさんの心配なこと)」  
 医 者：「そのことは心配ないと思います。ただし、ここからは気を付けるようにしてください」  
 Aさん：「そうですか、安心しました。これから気を付けたいと思います」  
 <帰宅後の夫との会話>  
 夫：「良かった。子どもを産むことは僕にはできないけど、それ以外は(2)何でも協力するよ」  
 Aさん：「お願いね」

問1 文中の①、②に当てはまる数字を入れてください。

問2 下線部(1)について、

a：「Aさんの心配なこと」とは何でしょう。Aさんのスケジュールを見て考えてください。(複数回答可)

b：なぜ、Aさんはその(それらの)ことが不安なのでしょうか。

問3 下線部(2)について、Aさんの夫は「何でも協力するよ」と言っていますが、あなたがAさん(またはAさんの夫)だったら、具体的にどんなことをしてほしい(したい)ですか。(複数回答可)

<解答例>

問1 ①8週目(8週4日) ②2月

問2 a：ストレスがたまっていた、お酒を飲んだ、レントゲンを撮った、生活が不規則、仕事が多忙 など

b：胎児への悪影響、流産の不安、育児への不安 など ※aとbの因果関係を重視する。

問3 育児休暇をとってほしい。お風呂に入れてほしい。子どもと遊んでほしい。 など

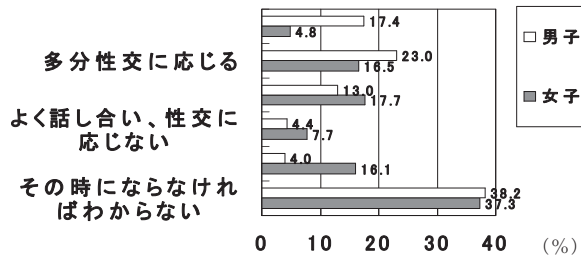
## 【心身の成長発達についての正しい理解について】

近年、性や薬物に関する情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化しており、子どもたちが性や薬物に関して正しく理解し、適切に行動することができるようにすることが課題となっている。学校教育においては、何よりも子どもたちの心身の調和的発達を図る必要があり、そのためには、子どもたちに心身の成長発達についての正しい知識を習得させ、実践的な判断や行動を選択する力を養うことが大切である。

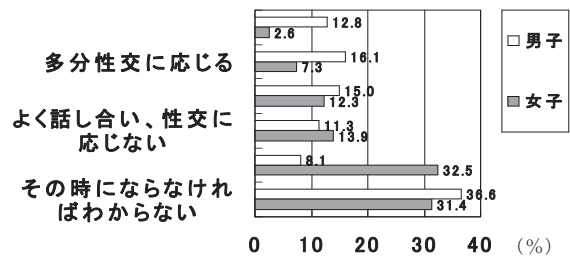
### 1 生徒の性に関するアンケート調査結果について

【調査対象】…道内の公立中学校、公立高等学校(全日制)に在籍する各学年の生徒(56校各学年1学級抽出4,330人)  
 【調査内容】…異性と交際や性に関する問題行動の状況などについて(中学生19項目、高校生17項目)  
 【調査期間】…平成19年10月～11月

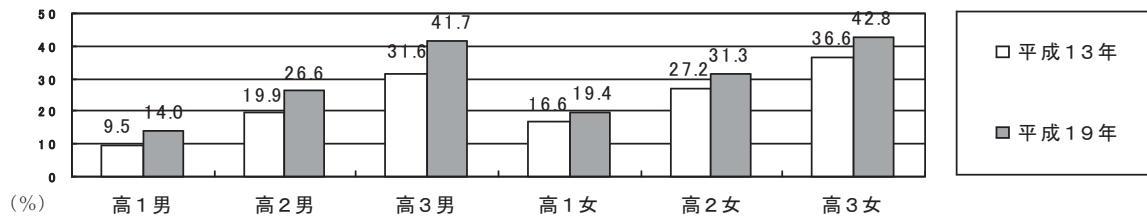
#### 【性交を求められた場合の対応(高校生)】 (平成13年)



(平成19年)



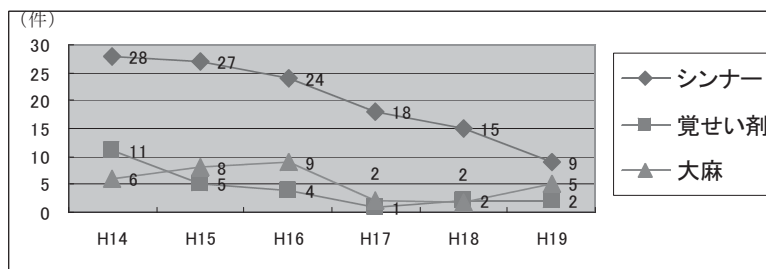
#### 【性交経験の有無】



調査結果を平成13年に実施した同様の調査と比較すると、本道の高校生については、性交をすることに對し否定的な考えをもつ生徒が増えている反面、性交経験率は高くなっており、意識と行動が乖離していること、さらに出会い系サイトの利用や援助交際などの問題行動も若干ではあるものの依然として見られるなどの状況が明らかになった。

### 2 薬物乱用に関する状況について

#### 【本道における中・高校生の薬物事犯の状況】



本道では中・高校生のシンナーや大麻等薬物乱用による検挙者が依然として見られるなど、緊急に對応すべき課題が生じており、生徒が薬物に関する正しい知識を身に付け、薬物の誘惑に影響されることなく適切な判断や行動ができる資質や能力の育成を図ることが重要である。

### 3 性に関する指導計画の整備と薬物乱用防止教室の開催について

生徒に性や薬物に関する正しい知識を身に付けさせ、適切な判断や行動ができるようにするためには、教職員の共通理解の下、学校の教育活動全体で性に関する教育や薬物乱用防止教育に取り組む必要がある。今後、各学校において、性に関する指導計画を整備するとともに、薬物乱用防止教室を開催するなどにより、計画的・組織的な指導の充実に一層努めることが重要である。

#### 【本道高等学校における性に関する指導計画の整備状況及び薬物乱防止教室の開催状況】

